

専門医の立場から地域医療の推進に貢献 一人診療所で道内トップ級の手術実績誇る



手術の様子を窓越しに見守れる家族控え室



十分な広さと各種機器の揃うリハビリ室



最新鋭の医療機器がそろう手術室



理事長・院長 北川 道生

1985年北海道大学医学部卒業。同大学医学部附属病院脳神経外科を振り出しに釧路労災病院、岩見沢市立総合病院、日鋼記念病院の各脳神経外科勤務。苫小牧市立病院(脳神経外科診療部長)で延べ8年務めた後、2005年6月に苫小牧東部脳神経外科開院。日本脳神経外科学会認定専門医。日本医師会認定産業医。

脳ドックで脳疾患の早期発見・治療を
苫小牧港、道央自動車道、新千歳空港にも程近い交通の要衝にあり、人口増著しい苫小牧市東部地区。2005年6月に開院した。北川院長は、苫小牧市立病院での脳神経外科診療部長をはじめ脳神経外科分野で30年以上のキャリアを積んできた、この道のスペシャリスト。一人診療所としては、大規模病院にも匹敵するような道内トップクラスの診療実績で各方面から好評価を得ている。診断から、手術までの一貫したケアを行い、専門医としての立場から救急や地域医療の推進に尽力している。

「脳疾患をめぐる病気で恐ろしいのが、脳動脈瘤破裂による、くも膜下出血」。前兆は稀で、働き盛り世代を中心に突然の大病に襲われる。だが、血管が破裂する前に、検査で異常を見つけることができれば、適切な治療が

可能になる。このため、院長は定期的な「脳ドック」の重要性を強調する。脳ドックでは、脳動脈瘤以外にも脳梗塞や良性の脳腫瘍が見つかるケースもある。脳梗塞は、偏頭痛とは異なり、突発的な頭痛や口のもつれ、歩けないなどの症状が見られるという。

家族が見守れるよう手術を公開

診療所の大きな特長は、手術の公開にある。手術室隣の控え室から、家族は手術の様子を窓越しに見守ることができる。家族への配慮と優しさが感じられ、院内は清潔感にあふれている。また、地方からの患者さんが何度も足を運ばなくても済むように、頭部MR(脳の断面写真)とMRA(脳の血管の形状の検査を、同日の受診で完了するよう取り組んでいる。「必要な検査を極力一回で行うことで病気の早期発見や予防、患者さんの負担軽減につながれば」と北川院長は期待する。

医療法人社団 **苫小牧東部脳神経外科**

☎(0144)53-5000

苫小牧市北栄町2丁目27番27号

ホームページ <http://tomakomai-e-neurosurgery.jp/>

脳神経外科・放射線科・リハビリテーション科

診療時間／
月・火・水・金／9:00～12:30 14:00～18:00
木・土／9:00～12:30
(木曜午後は手術・検査日)
休診日／日・祝日

